

平成28年度第1回通常理事会、平成28年度定時評議員会議決

平成27年度 事業報告書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

公益財団法人 仏教伝道協会

公益財団法人仏教伝道協会

平成27年度事業報告書

公益財団法人仏教伝道協会は、日本文化の基本でもある慈悲と共生の仏教精神と仏教文化とその学術振興を促進し、現代的理解を弘め、グローバルな啓蒙活動を通して豊かな人間性を育て、より良い社会形成を推進し、もって人類の幸福と世界平和の実現に貢献することを目的とし、定款に定める事業にそって各種事業を推進して参りました。

については、定款に定める事業に沿って「平成27年度事業報告」を致します。

平成27年4月1日より平成28年3月31日に至る公益財団法人仏教伝道協会の事業ならびに重要事項は次の通りである。

1. 公益目的事業報告（公1）

1. 趣旨（目的）まとめた理由

仏教典籍の現代語訳、外国語訳を行いその刊行、普及事業や仏教関連の各種講座、研究会の開催による仏教精神の啓蒙活動、さらに仏教音楽祭などによる仏教文化の興隆と継承活動、また仏教精神、学術、文化の振興に積極的に関わってきた個人、団体への顕彰・助成等いろいろな支援事業を通して世界中の一人でも多くの人に仏教を理解して頂き、豊かな人間性を育て、より良い社会形成促進をもって人類の幸福と世界平和の実現という共通の目的達成の手段であり下記の2-1) から2-3) までの事業は、つながりのあることから一つにまとめている。

2. 事業

2-1) 仏教典籍の現代語訳及び外国語訳による編集とその普及事業

1. 仏教聖典の現代語訳、外国語訳刊行、頒布事業に関する事項

◇「仏教聖典」各国語訳とその出版について

全世界に「仏教思想」を伝えるべく、「仏教聖典」の翻訳改訂を進めている。現在、翻訳言語数は46言語。また聖典を現代に即した内容にするため、平成27年度はカンボジア語を改訂した。引き続き、チベット語・アラビア語・ポーランド語・ミャンマー語等の改訂を進めている。

◇「仏教聖典」副読本出版について

「仏教聖典」は元々、高校生でも読める内容を目指して編集されたが、現代の活字離れした読者にはややおぼつかしい内容となっている。そこで「仏教聖典」がより身近な聖典となり、一般読者にも仏教への関心が高まることを目的としたやさしい解説書付き副読本『さとの知恵を読むー仏教聖典副読本』を作成した。

◇「仏教聖典」の普及について

「仏教聖典」を世界の主要ホテルの客室に寄贈する運動は、国内のホテル8軒、海外

のホテル173軒より新規申し込みを受けた。本年は特に出張による国内ホテルへの補充依頼活動を積極的に行ったため、新規・補充を合わせた平成27年度の寄贈冊数は、国内約47,000冊、海外約36,000冊となった。国内外あわせてホテル累計寄贈数は62カ国、約13,700軒・3,800,000冊に至った。

仏教的情操教育を喚起するための教育機関等への仏教聖典頒布活動は、平成27年度は、大学・高校約100校、保育施設200園を中心に、約50,000冊を寄贈した。これで平成24年度からの頒布開始以来、4年間の寄贈数累計は273,000冊、寄贈先は全国の仏教系大学・高校の約70%、133校に達した。また、名入れ印刷をした『和英対照仏教聖典』等を入学・卒業記念品として約9,500冊販売した。

次に『仏教聖典』の一部を抜粋、編集した小冊子『ブッダのおしえ』を全国の有名観光寺院、ミュージアム、学校等に約157,000冊（日本語版118,000冊、英語版39,000冊）寄贈した。累計寄贈冊数は日本語版約495,000冊、英語版約108,000冊となった。

2. 英訳大蔵経の刊行、頒布事業に関する事項

欧米をはじめとする英語文化圏にも仏教の真髄を理解していただくため「集大成された仏典」である『大正新脩大蔵経』の英訳刊行事業を進めている。日本の英訳大蔵経編集委員会と米国仏教伝道協会に設置の英訳大蔵経出版委員会との協力体制のもと、第1期分139典籍の刊行を進めている。翻訳完了した92典籍の内、82典籍を49巻にまとめ「英訳大蔵経」として出版している。平成27年度は第47巻『弘明集(1)』、第48巻『密教の三典籍(理趣経・摩登伽経・菩提心論)』、第49巻『長阿含経(1)』の3巻を出版、頒布した。残り47典籍は翻訳進行中である。

3. その他仏教書籍の出版、頒布事業に関する事項

仏教の精神文化の裾野を広げるため全国の寺院、学校、保育園等へ「一日一訓カレンダー」・仏教書籍を制作、頒布している。

平成27年度は、「一日一訓カレンダー」ハ正道シリーズ4冊目の「正業」を刊行し、164,000部を頒布した。併せてカレンダー解説書—みちしるべ『正しい行い—正業—』（執筆者 小川一乗 大谷大学名誉教授）を教化教材として刊行し、87,000冊を全国の寺院に頒布した。

また、平成27年度も「2017年一日一訓カレンダー」用の掲載写真を一般公募する「第2回 フォトコンテスト—ほとけの心」を開催した。これは写真を通してより多くの人びとに仏教に親しむ機会を提供する事を趣旨としたものである。平成27年1月から8月末までの応募期間中に421件 1,181枚の応募があり、平成27年9月4日に審査委員会を開催、厳正な審査の上、入選作品31点を選定した。これら入選作品は、平成28年度に発刊される「2017年一日一訓カレンダー」に掲載する。

また、第1回フォトコンテスト入選作品の写真展を築地本願寺にて開催。平成27年7月10日～24日の期間中、約1万人の国内外の観光客が参拝に訪れ、本堂入口スペースに展示された入選写真と筆文字パネルを鑑賞した。

さらに、既刊みちしるべの中から名講話50編を選出した『みちしるべ名講話選』の第2巻目『じひ—慈悲』（25編）を刊行、全国寺院に頒布し、設立50周年記念品として第1巻『ちえ—智慧』とセットとした函入り記念本を作成し記念式典出席者に配布した。

次に平成26年に出版し大変好評であった学習マンガ『仏教のひみつ』の英訳版『The Wisdom of Buddhism in Japan』を山口県阿知須きらら浜にて44年ぶりに日本で開催された第23回世界スカウトジャンボリーにおいて5,000冊無料配布し、世界の青少年に日本仏教の精神を紹介した。

その他、初心者向けの冊子として仏教の歴史や宗派、仏教用語などを簡潔に解説した『とってもやさしい はじめての仏教』を作成、寺院を中心に約107,000冊を無料配布した。

2-2) 仏教精神と仏教文化とその学術振興の促進に対する助成と表彰事業

1. 留学生奨学金制度に関する事項

◇外国人留学生奨学金制度について

日本で仏教学研究を希望する外国の学者・研究者または学生に対して、外国人留学生奨学金交付制度を設けている。

平成27年度は世界の有名大学や研究機関へ留学生奨学金応募要項を約150通送付、又ホームページでの一般公募で13名の応募があり、平成27年2月5日に開催された仏教学者からなる外国人留学生奨学金審査委員会の公正な審査により、Kevin Buckelew氏（ケビン・バカル、アメリカ国籍、京都大学）、Keyongjin Choi氏（キョンジン・チョイ、韓国国籍、東京大学）の2名に支給した。

また平成27年度は、当協会設立50周年および「外国人留学生奨学金制度」創設25周年の記念刊行物として、現在、当協会で行っている「外国人留学生奨学金制度」「日本人留学生奨学金制度」ならびに海外協力機関であるヨーロッパ仏教伝道協会で行われている「ドイツ大谷奨学金」「ドイツ恵光研究奨学金」、同じくカナダ仏教伝道協会において運営されている「BDK Canada Graduate Scholarship」計5つの奨学金を過去に受給された方がたの現在に至るまでの研究成果、活躍の状況、奨学金受給の意義等を記す『BDK Fellowships in the World』を刊行し、平成27年6月に約700部を国内外の奨学生受け入れ研究機関および指導教授、関係各位へ送付した。

◇日本人留学生奨学金制度について

海外の大学や研究機関にて仏教精神とその文化を学ぶ、日本人の学者や研究者に日本人留学生奨学金制度を平成25年度から設けている。

平成27年度は日本の有名大学や研究機関へ留学生奨学金応募要項を約150通送付、またホームページでも一般公募し、結果4名の応募があり、平成27年2月5日に開催された仏教学者からなる日本人留学生奨学金審査委員会の公正な審査により、一色大悟氏（イギリス・ブリストル大学）、石村克氏（アメリカ・ニューメキシコ大学）の2名に支給した。

2. 顕彰事業に関する事項

国内外を問わず、仏教に関わる幅広い分野で貢献された方がたの功績を讃え、長年に亘って仏教伝道文化に貢献のあった方または団体に「仏教伝道文化賞」を、また今後の仏教伝道を通じた文化活動の振興が、大いに期待できる方または団体に「仏教伝道文化賞 沼田奨励賞」を授与する仏教伝道文化賞の表彰事業を行っている

る。

平成27年度は、平成27年4月下旬より仏教各宗派本山、仏教会、教務支所、仏教系学校、海外各仏教宗派教団本部等に約800通の推薦依頼書送付、ホームページでも周知を行い、仏教伝道文化賞に28通、沼田奨励賞に21通の推薦書を受領した。この推薦書をもとに、平成27年7月13日に仏教伝道文化賞選定委員会を開催し、下記の2名に授与する事を決定し、10月15日、第49回仏教伝道文化賞贈呈式を挙行し、賞金、記念品を贈り表彰した。

各受賞者名、受賞理由は次の通り。

仏教伝道文化賞

受賞者：金光寿郎氏

受賞理由：NHKディレクターとして仏教を多くの人に伝え、特に地方の隠れた仏教者を掘り起こして紹介。

仏教伝道文化賞 沼田奨励賞

受賞者：ビハーラ医療団

受賞理由：医療と仏教の協働に努める。研修会を開き、意見交換し、終末医療に仏教思想をどう活かすかに取り組む。

3. 助成事業に関する事項

◇団体等への助成について

当財団の事業目的と同じ目的を持ちその活動を積極的に展開している個人及び団体を選定し、当財団の目的とする事業実現のため国内外で助成支援を行っている。平成27年度は、平成27年2月16日と平成27年10月22日に開催された助成金審査委員会の決定に基づき以下の法人・団体に対して、国内1,640万円、海外60万円、US\$252,100、CA\$56,000、€20,400、£30,000の助成を実施した。

助成先法人・団体

〈国内〉

公益財団法人全国教誨師連盟

東京親鸞会

日本印度学仏教学会

南無の会

公益財団法人中村元東方研究所

一般社団法人お寺の未来

株式会社劇団前進座

特別展「聖護院の名宝～修験道と華麗なる障壁画～」実行委員会

龍谷大学 龍谷ミュージアム

東洋大学仏教会

一般社団法人大日本仏教慈善会財団

公益財団法人シャンティ国際ボランティア会

宗教法人薬師寺

学校法人芝学園

〈海外〉

米国仏教大学院（沼田恵範教授基金設立事業）

米国仏教大学院（『Pacific World』刊行事業）

カリフォルニア大学バークレー校

（Toshihide Numata Book Prize in Buddhism）

カリフォルニア大学ロサンゼルス校 仏教学センター

シカゴ大学神学部

マギル大学

ロンドン大学

ウィーン大学（「沼田仏教講座基金」）

ウィーン大学（「沼田仏教講座活動助成」）

Ebisu Filmes

2-3) 仏教精神とその文化興隆にかかわる啓蒙活動と支援事業

1. 啓蒙活動としての仏教関連講座、セミナー、研究会等の運営に関する事項

◇仏教聖典を初歩英語で学ぶ会について

一般の不特定多数の希望者を対象に、英語を通して仏教精神を学んでいただくことを目的とし、平成23年9月より月1回（8月を除く毎月第4木曜日、午後6時30分から午後8時まで）「仏教聖典を初歩英語で学ぶ会」を開催している。ホームページや新聞などで案内し、毎回約30人（参加費500円）が毎月参加している。

平成27年度は、講座を前期・中期・後期に分け、前期・中期はステファン・グレイス氏を講師に英語から禅を考えるカリキュラムを実施し、後期はケネス田中師を講師に招き、当協会刊行の英語版『仏教のひみつ』をテキストに講座を進めた。年間を通して233名の参加があった。

◇実践布教研究会について

日本仏教の祖師がたが歩まれた道を、現代に生きる僧侶たちが自ら体験することによって、聞・思・修一体となった仏道を体験していただき、仏教の現代的理解の促進、ならびに各宗派の僧侶間の交流を推進すべく、各宗派の本山を会場に毎年1回2泊3日にて実践布教研究会を開催している。

平成27年度は、平成27年6月10日から6月12日の2泊3日間、「布教伝道」をテーマに伝道者としてのあるべき姿を研鑽すべく、「布教伝道 ～曹洞禅に学ぶ～」をテーマに掲げ、全国より宗派を超えて45名の僧侶が参集。曹洞宗大本山永平寺を会場に第45回実践布教研究会を開催した。永平寺西堂 奈良康明先生「道元禅師のこころ」、永平寺副監院 丸子孝法先生「僧堂修行のこころ」、仏教伝道協会監事 中野東禅先生「実践布教研究会のあゆみと願い」としてそれぞれ講話をいただき、大本山永平寺貫首 福山諦法猊下より参加者に向け御言葉を頂戴した。また坐禅も体験した。分科会では「現代人にこたえる仏教 ～私の視点～」をテーマに、参加者同士の活発な意見交換が行われ、宗派を越えて互いに親睦を深めるとともに研鑽を積んだ。

◇仏教聖典を生活に活かす会について

仏教精神を日常生活に活かすことを目的として不特定多数の一般の方を対象にホームページ等で周知し、「仏教聖典」を基本教材に、毎月1回専門家の講師を招き、「仏教聖典を生活に活かす会」を主催運営している。平成27年度はご講師に一島正真師、ケネス田中師を招き、12回開催し、のべ345名の参加があった。

◇仏教聖典を経営に活かす会について

仏教精神を学び事業経営に活かし、また人生の道標の一助とすることを目的とし、おもに事業経営者や社会人を対象に案内状や当財団のホームページ等で周知し、「仏教聖典」を基本教材に、毎月1回専門家の講師を招き、「仏教聖典を経営に活かす会」を主催運営している。平成27年度はご講師に木村清孝師、逸見道郎師を招き、8月を除く11回開催し、のべ311名の参加があった。また8月は夏季研修会として8月22日に千葉南房総の臨濟宗妙心寺派佛母寺、曹洞宗日本寺（鋸山）を訪ね、参加者20名は研鑽を積みつつ親睦を深めた。

◇働くひとのための坐禅会について

平成25年度より新企画として、働く女性を対象に坐禅を通じて、仏教に親しみを持ってもらう事を目的に本講座を開始。平成26年度より男女問わず、不特定多数の一般の方を対象にして“働くひとの坐禅会”として専任の講師を招き、「仏教聖典」を使用した法話20分、坐禅40分、茶話会30分の構成で開催している。

平成27年度は、前年度に引き続きご講師に阿 純章師を招き、8月と12月を除く毎月1回、計10回開催し、年間講座参加者数は、209名であった。

◇BDKシンポジウムの開催について

平成27年度の年間テーマを「仏教における科学と信仰」とし、それぞれ講師による副題を設け、下記の2回のシンポジウムを企画、実施した。

本シンポジウムの開催は、不特定多数の一般の方を対象とし、ホームページや業界誌などで周知し、定員は各120名だったが、毎回140名を超えた。

各シンポジウムの開催概要は下記の通り。

平成27年度第1回BDKシンポジウム

テーマ：「仏教における科学と信仰－我々はなにをよりどころとして生きるべきか－」

開催日：平成27年7月24日（金）

時間：18：00～20：00

講演者：佐々木閑（花園大学教授）

略歴：1958年、福井県生まれ。京都大学工学部および文学部卒業。京都大学大学院研究科博士課程満期退学。

平成27年度第2回BDKシンポジウム

テーマ：「仏教における科学と信仰－阿弥陀信仰の科学的根拠－」

開催日：平成28年2月12日（金）

時間：18：00～20：00

講演者：カール・ベッカー（京都大学教授）

略歴：1951年、米国生まれ。ハワイ大学で学んだ後、京大等に留学し、南イリノイ大学、大阪大学、筑波大学の教鞭を経て、現職。
臨死体験を浄土教の立場より研究が有名。

◇沼田智秀仏教書籍優秀賞受賞者講演会

当協会が助成支援しているカリフォルニア大学バークレー校の仏教学センターが主催する「沼田智秀仏教書籍優秀賞（Toshihide Numata Book Prize in Buddhism）」の2014年度受賞者の一人であるエリック・ブラウン博士（オクラホマ大学）の来日講演を平成27年6月3日（水）に東京大学で、また平成27年6月5日（金）に龍谷大学（龍谷大学世界仏教研究センター）で開催。各会場には学内外の研究者・一般の人々が40名集まり、西洋の最先端仏教研究に触れて頂く機会となった。

◇BDK仏教ヨガ講座について

一般の不特定多数の希望者を対象に、身体と心の健康を養い、心や頭の整理をする場を持って頂くことを目的に、平成27年4月より月1回（毎月第1水曜日、午後7時から午後8時半まで）「BDK仏教ヨガ講座」を開催。講師は、浄土宗の僧侶で、ヨガインストラクターでもあるガッソ有香氏に依頼し、仏教の法話とヨガの実践を交えた講座を開催。当初は定員を25名としていたが、受講者からの参加希望の問い合わせが多く、9月より定員を40名に増やすとともに講師アシスタントを加え、結果、年間を通して239名の参加があった。

◇「知的仏教講座」開催について

より多くの方に仏教精神に触れていただくため、人気書道家のワークショップに禅僧の法話と椅子坐禅を組み合わせた「知的仏教講座」を開催した。平成27年9月27日（日）は「禅を知る×書道を愉しむ」をテーマに、講師に鈴木猛利氏を招き、約30人が参加。平成28年3月21日（月・祝）は「人生がグッと楽しくなる、禅と書道」をテーマに開催。講師は武田双雲氏で参加者は約70人であった。僧侶は両日とも臨済宗妙心寺派 龍源寺住職の松原信樹師に依頼し、参加者には書道に親しんでもらうだけでなく、法話と椅子坐禅の体験を通して仏教の一端に触れていただいた。

◇50周年記念特別仏教講座「落語の原点 節談を聞く」開催について

平成27年度は協会設立50周年記念して、落語の原点といわれる節談説教を多くの方がたに伝え、落語を縁として仏教の魅力を知っていただくために、特別仏教講座「落語の原点 節談を聞く」を平成27年4月2日、仏教伝道センタービル8階「和」の間にて開催した。節談説教研究会事務局長 府越義博師による「節談説教について」の講演、浄土真宗本願寺派布教使 桜庭尚吾師による「落語と節談」の実演、真宗大谷派満覚寺前住職 廣陵兼純師による節談説教で構成され、140名が来場した。

◇写真展「ブッダのことばとインドの風景」福島県開催について

東日本大震災被災地支援として、平成26年度に岩手県と東京で開催した写真展「ブッダのことばとインドの風景 ～今を生き抜くために～」を、平成27年度は未だ津波被害の爪痕が残る福島県南相馬の道の駅「南相馬」（平成27年9月19日～23

日)と原発被害に苦しむ会津坂下町の道の駅「あいづ」(平成27年9月25日～30日)にて開催し、合わせて約1700名の来場者があった。

写真展開催中は、「お坊さんとお話コーナー」を設置し、地元の僧侶に悩みや相談事をしてもらえる場をつくり、ボランティアで参加された僧侶の方からは「地域の人々の声をこうして聞けることができ嬉しい。地域の声に耳を傾けることの大切さを改めて学んだ」との声を聞くことができた。写真展は、地元の人々と地元の僧侶やお寺を繋ぐ企画にもなった。

2. 仏教音楽の現代化とその普及事業について

伝統的宗教音楽を継承すると同時に、仏教音楽の現代化を進め、広く仏教精神とその文化に親しんでいただくことによって、仏教的基盤の確立を目指し、昭和52年以来、仏教音楽にちなんだコンサートや新しい仏教音楽の作品募集などを不定期で行っている。

平成27年度は、仏教伝道協会設立50周年を記念して、平成27年9月11日、「Buddhaspel(ブッダスペル) アニバーサリーコンサート～第17回仏教音楽祭～」を恵比寿ザ・ガーデンホールにて開催した。第一部に太田裕美さんによるコンサート、姜暁艶さんによる二胡の演奏、続く第二部は、迦陵頻伽聲明研究会とアンサンブル東風による真言宗豊山派の聲明作法にオーケストラ音楽を組み合わせた演目で構成され、約600名が来場した。

3. 三田落語会の事業について

仏教説話や寺社を舞台とする古典落語を交えて、近隣はじめ一般の方々に楽しんでいただくと同時に仏教精神の涵養と仏教文化継承を目的とし、平成24年4月から当財団の主催として「三田落語会」を開催運営している。

平成27年度は4月、6月、8月、10月、12月、2月の計6回開催し、のべ1,838名の来場者があり、好評を得ている。

また財団設立50周年記念として、平成28年1月30日に、「三田落語会大感謝祭」を浜離宮朝日ホールにて開催。柳家さん喬、春風亭一朝、露の新治、桃月庵白酒の高座に、727名が来場した。

4. 貸し会議室事業に関する事項

◇公益目的事業としての施設の貸与事業について

仏教伝道センタービルの施設を有効活用し、公益目的事業として施設の貸与事業を行っている。当財団が公益財団移行後に公益目的として掲げる“豊かな人間性を育て、より良い社会の形成を促進しもって人類の幸福と世界平和の実現”に貢献する事を目的とした会議等を開催する公益法人、社会福祉団体、NPO法人、市民団体等を優先し、通常(一般)は3ヶ月前からの予約受付に対し、6ヶ月前から予約を受け付け、通常(一般)価格の半額で貸出し、多くの公益目的事業を側面から支援することによって、社会貢献している。

平成27年度の会議室の公益目的利用実績(公益財団、公益社団等の使用)は196件であった。

II. 収益事業報告（収1）

◇収益事業としての施設の貸与事業に関する事項

仏教伝道センタービルの施設における公益事業目的で当面使用予定のない空きスペースならびに空き時間を一般に向けて貸与する事業を行っている。

平成27年度の会議室の一般目的利用実績（一般株式会社等の利用）は436件であった。

III. その他

◇設立50周年に関連する事項

当財団は昭和40年の設立より平成27年で50周年を迎えた。この機縁に、これまでの活動を支えてくださった各位に謝意を表するとともに、今後のさらなる発展を誓う場とすべく、平成27年11月27日（金）東京・ホテルニューオータニ 芙蓉の間において、公益財団法人仏教伝道協会設立50周年記念式典を挙行了。式典には、仏教界の諸大徳をはじめ、日頃より当協会を支えていただいている関係各位約370名のご臨席を賜り、厳粛かつ盛大に執り行うことができた。

また、50年の活動の歴史をあらためて整理しまとめた「50年史」、仏教伝道協会のあゆみと事業を紹介する映像DVDを制作し、記念式典の来場者をはじめ、関係各所へ配布した。

Ⅲ. 事務報告

1. 役員等に関する事項

理事・監事

(平成28年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
代表理事 (会長)	沼田智秀	常勤	平成27年6月25日 (再任)	株式会社ミットヨ相談役
理事	木村清孝	非常勤	平成27年6月25日 (再任)	東京大学名誉教授
理事	奈良康明	非常勤	平成27年6月25日 (新任)	駒澤大学名誉教授
理事	上山大峻	非常勤	平成27年6月25日 (再任)	龍谷大学名誉教授
理事	桂 紹隆	非常勤	平成27年6月25日 (再任)	広島大学名誉教授
理事	門脇邦彦	非常勤	平成27年6月25日 (再任)	日本空港ビルデング株式会社 名誉会長
理事	野村邦武	非常勤	平成27年6月25日 (再任)	元富士銀行代表取締役常務
理事	中谷忠雄	非常勤	平成27年6月25日 (再任)	元株式会社ミットヨ 代表取締役専務
理事 (常務理事)	生田忠士	常勤	平成27年6月25日 (再任)	元株式会社ミットヨ取締役
監事	中野東禅	非常勤	平成25年4月1日	竜宝寺住職
監事	松村智司	非常勤	平成25年6月25日	元第一勧業銀行取締役

評議員

(平成28年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
評議員	山田一眞	非常勤	平成25年4月1日	金剛院院主
評議員	小出忠孝	非常勤	平成25年4月1日	愛知学院大学学院長
評議員	市川智康	非常勤	平成25年4月1日	池上本門寺学頭
評議員	田中教照	非常勤	平成25年4月1日	武蔵野大学学院長
評議員	塩入亮乗	非常勤	平成25年4月1日	浅草寺本堂部
評議員	平田史郎	非常勤	平成25年4月1日	国府台女子学院学院長
評議員	阿 純孝	非常勤	平成27年6月25日	圓融寺名誉住職
評議員	中川 徹	非常勤	平成25年4月1日	株式会社ミットヨ 代表取締役社長執行役員
評議員	沼田恵明	非常勤	平成25年4月1日	株式会社ミットヨ 代表取締役専務執行役員
評議員	中川敬史	非常勤	平成25年4月1日	株式会社ミットヨ 取締役上席執行役員

※細川景一氏は平成27年6月25日の定時評議員会の終結をもって評議員を辞任。

顧問

(平成28年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
顧問	金光寿郎	非常勤	平成25年4月1日	NHK放送ディレクター
顧問	菅原伸郎	非常勤	平成25年4月1日	元朝日新聞こころ 編集長
顧問	松田正典	非常勤	平成25年4月1日	広島大学名誉教授
顧問	北畠典生	非常勤	平成25年4月1日	浄土真宗本願寺派勸学
顧問	高島孝範	非常勤	平成25年4月1日	仏教伝道協会前常務理事

※奈良康明氏は、平成27年6月25日の理事就任をもって顧問を辞任。

2. 理事会・監事会・評議員会に関する事項

(a) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成27年5月8日（金） （みなし決議の理事会）	「役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する 規程」改定を評議員会に提案する件 評議員会みなし決議の件	可 決 可 決
平成27年6月3日（水） （平成27年度第1回通常）	平成26年度事業報告および収支決算報告の件 諸規程諸規則の改定の件 福山諦法氏への退任慰労金支給の件 新理事推薦の件 評議員の辞任および補欠評議員推薦の件 仏教伝道センタービル区分所有解消の件 平成27年度定時評議員会開催の件	可 決 可 決 可 決 可 決 可 決 可 決 可 決
平成27年6月25日（木） （平成27年度第1回臨時）	代表理事及び業務執行理事（常務理事）選定 の件	可 決
平成27年11月19日（木） （平成27年度第2回通常）	助成金交付の件 仏教伝道センタービル建て替え費用準備金設定 の件	可 決 可 決
平成28年3月25日（金） （平成27年度第3回通常）	平成28年度事業計画及び収支予算書承認の件 「特定個人情報・雇用管理情報管理規程」 制定の件 「謝金取扱規程」制定の件	可 決 可 決 可 決

(b) 監事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成27年5月27日（水）	平成26年度財産状況および業務執行状況	正確である ことを確認

(c) 評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成27年5月25日（月） （みなし決議の評議員会）	「役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する 規程」改定の件	可 決
平成27年6月25日（木） （平成27年度定時）	平成26年度事業報告および収支決算報告の件 任期満了に伴う理事改選及び新理事選任の件 評議員辞任に伴う補欠評議員選任の件 諸規程諸規則改定の件 仏教伝道センタービル区分所有解消の件	可 決 可 決 可 決 可 決 可 決

以 上

平成27年事業報告 附属明細書

平成27年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成28年6月
公益財団法人仏教伝道協会
代表理事 沼田智秀